

文教経済 委員会

調査項目

- 所管事務調査（管内視察）
- 現地視察報告

5月22日、文教経済委員会の所管する事業について調査するため、管内(市内)における現地視察を行いました。

《JA飛騨高山トマト選果場》

高山・久々野・清見の3選果場を統合し、新しいトマト選果場が漆垣内町に建設されました。事業費は約9億6000万円です。その内約4億5000万円が国と市の補助です。これにより集荷・選果・出荷などの合理化が進み、新システム導入でトマトの軟化率などが抑えられることから、収益率の向上も期待されます。



新しいトマト選果場

《八野大工（金鳳台修理）》

市の計画に基づき、祭屋台修復の現場を見せていただきました。現在、片野町の八野大工さんにより、金鳳台（下一之町）の修理が行われています。高山には八野大工さんも所属する「高山・祭屋台保存技術協同組合」という特殊技能の団体があり、高山はもとより、他市の山車・屋台の修復も手がけておられます。



屋台の方向転換用車輪の格納部

《飛騨 森の工房》

「飛騨製箸(株)」が「木質燃料(株)」とともに「飛騨 森の工房」(新宮町)を立ち上げられました。間伐材を利用して杉の割り箸を製造し、その端材やオガコをペレット燃料に再利用するものです。杉割り箸は香りもよく手触りも良好で、エコとともに森林・林業の活性化への貢献が期待されます。今後は、製品の普及・販路の拡大などが課題となってきました。



杉の割り箸製造過程



集められた杉の間伐材



ペレット燃料

◇その他の視察先

- 東小学校改築現場 (松之木町)
- 旧ウッドインであり (庄川町、牧戸)
- であいの森 (庄川町、牧戸)
- ㈱東海プレカット飛騨工場 (新宮町、木の里団地)

今年度の重点調査項目

高山市における平成23年の観光客の消費額は約594億円で、それによる経済波及効果の総額は約1295億円にのぼるとの高山市の調査ができています。観光は間違いなくわがまちの基幹産業であります。

同時に、もう一つの基幹産業である農業は、単にその分野としての経済的役割のみでなく、食を通じて観光面とも深いかわりを持ち、高山市の経済全体を押し上げるものとして、地場での消費率を上げることが求められています。

また、まちの将来像を語るときに、避けて通れない経済的側面の課題として「若者の働く場所」の問題があり、市民生活を支える年代層の流出は深刻な問題です。

これらのことから、文教経済委員会は今年度の重点調査項目を、右表のように設定し研究を進めることとしました。

重点調査項目（検討課題）	
1 観光政策の展開について	① 誘客推進の点検と各種取り組み
	② 中心市街地の賑わい創出と回遊観光
	③ のりくらすカイルライン観光交通政策
2 若者雇用の創出について	① 若者定住
	② 起業支援
	③ ファンドの活用
3 地産地消の取り組みについて	